

## 1 実施概要

全国学力・学習状況調査は、文部科学省が全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、教育施策の成果と課題を検証し改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や改善に役立てることを目的として、全国の小学校6年生と中学校3年生を対象に、平成19年度から実施されています。

令和7年度は市内、小学生681名、中学生574名が参加し、4月18日に調査が実施されました。調査内容は、毎年実施されている国語、算数・数学に加え理科及び学習意欲や生活状況等について尋ねる児童生徒質問調査となっていきます。

本市においては、年間を通して、「京田辺市学力向上対策会議」を開催し、学力調査の分析結果を活用して、児童生徒の学力を一層向上させるために、教育委員会、各小中学校及び関係諸機関と連携を図りながら、各小中学校における教育指導の充実や学習状況の改善、教育施策の成果と課題を検証し、教育に関する継続的な検証改善サイクル(PDCAサイクル)を確立し、その改善に向けた取組を進めています。

## 2 学力調査の結果概要

### 【国語科の結果概要】

- 小学校では、すべての領域・観点において、国や府の平均正答率を上回っていました。
- 中学校では、すべての内容・観点において、概ね国や府の平均正答率に近い結果となっています。記述式の問題形式に課題が見られました。

### 【算数科・数学科の結果概要】

- 小学校では、すべての領域・観点において、国や府の平均正答率をかなり上回っていました。
- 中学校では、すべての領域・観点において、概ね国や府の平均正答率に近い結果となっています。データの活用に課題が見られました。

### 【理科】

- 小学校では、多くの領域・観点において、国や府の平均正答率を上回っていました。記述式の問題形式に課題が見られました。
- 中学校では、国や府の平均正答率を下回る結果となっています。「思考・判断・表現」に関する問い合わせで国や府の平均正答率との差が見られました。

小学校で国や府の平均正答率を上回り、中学校で国や府の平均正答率と同等という結果となっています。また、小・中学校とも、理由等を記述式で解答する問題の無回答率が高くなっている状況が見られました。

## 3 質問調査の結果概要

### 【生活習慣について】

- 小・中学校ともに、「朝食を毎日食べている」「同じくらいの時刻に寝ている、起きている」の項目は、国や府平均を概ね上回っており、基本的な生活習慣が身に付いている児童の割合は高い水準を維持しています。しかし、中学校においては、「同じくらいの時刻に寝ている、起きている」の割合が国や府平均より低くなっています。朝の過ごし方が一日の生活リズムを整える上で大切な役割を果たしますので、今後も規則正しい生活習慣の確立に向け、各家庭におかれましても生活リズムを整えるとともに、その習慣化にご協力をお願いいたします。

### 【学習習慣について】

- 小・中学校ともに、概ね家庭学習(宿題・習い事を含む)をしっかりと行っており、家庭学習が十分に取り組めている傾向にあります。しかしながら、1日の家庭学習時間が30分以下、または全くしない割合が多く、家庭学習に取り組む姿勢に二極化の傾向が見受けられます。学校の授業の予習・復習をしっかりとやり切ることはもちろんのこと、自らの学習課題の解決に向けた学習計画を立て、主体的に学習に取り組み、習慣化につなげていくことが大切になります。

### 【自分自身に関することについて】

- 「将来の夢や目標を持っていますか」の質問に対し小学校、中学校ともに国の割合より若干低い状況にあります。将来への目的と展望を持って過ごすことができるよう、キャリア教育の充実に努めています。また、「友達関

係に満足していますか」の割合は低く、コミュニケーション不足も感じられます。「自分にはよいところがある」に対しては、小・中学校ともに概ね国や府より高いのに対して、「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることがある」という質問では、中学校において国や府より低くなっています。自己肯定感・自己有用感の高まりが今後必要であり、友人関係の構築をはじめ、人との関わりの中で自らの進路を主体的に切り拓く能力や態度を育成していくことが大切であると考えます。

#### 【学習への関心について】

○「授業の内容はよく分かりますか」の質問について小学校で低い水準、中学校については「国語」で低い水準となっています。また、「授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う」の項目では、小中学校ともに「国語」で低い水準、「算数・数学」で高い水準となっています。関心や学ぶことの意欲は概ね見られますが、中学校になると、それが少し低くなる傾向にあります。一方で、小中学校ともに、「勉強が好きである」の項目については、肯定的に回答した児童生徒は5割程度となっています。「分からぬことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え工夫することはできていますか」の項目で中学校において国や府平均を上回っており、自ら学ぶ姿勢を感じられます。「児童生徒が主体的に学習に取り組むなど学習意欲の向上につながるような学習活動」が展開されるように、今後も授業改善に努めてまいります。

#### 【ICT利用と学習への関わりについて】

○小・中学校とともに、授業時間におけるタブレット端末等のICT機器の利活用や使用頻度は、国や府より非常に高い割合を維持しており、学校教育におけるタブレット端末の活用が「日常化」されていると言えます。しかし、授業時間以外での学習についての使用時間や頻度が国や府より高い水準を示してはいるものの、家庭学習における更なる効果的な活用を検討していくことが課題として挙げられます。併せて、デジタルシティインシップ教育や情報モラル教育を活かした教育活動を展開し、学びを深めるためのICT機器の活用に取り組みながら、今後の授業改善にもつなげていきます。また、各家庭におかれましても、個人情報の取り扱い等について、お子様と十分に話し合っていただければ幸いです。

## 4 調査結果の分析を踏まえた今後の改善方策

#### 【国語科の重点的な方策】

○小学校では、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫し、まとめることができるよう指導するとともに自分の考えが伝わるように表現を工夫することができるような学習活動を行い、主体的・対話的で深い学びによる授業改善に努めてまいります。

○中学校では、自分の考えが分かりやすく伝わる文章になるように、根拠を明確にして書く指導及び授業改善の工夫を行ってまいります。

#### 【算数科・数学科の重点的な方策】

○小学校では、簡単な二次元の表を読み取り、必要なデータを取り出して、抜け落ちや重なりがないように分類整理することに弱さが見られたため、図・式・グラフ・言葉を使って、筋道を立てて説明できる場を設定しながら、思考力・判断力・表現力等を高めるような主体的・対話的で深い学びによる授業改善に努めてまいります。

○中学校では、図形やデータ活用に課題が見られ、複数の集団のデータの分布の傾向を比較して読み取り、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかを見る問題に弱さが見られたので、既習内容の定着とともに、様々な資料やデータから必要な情報を取捨選択し、問題解決の過程や結論を考えたり、説明したりする学習活動を積み重ね、学びと日常生活がつながっていくような授業改善の工夫に努めてまいります。

#### 【理科の重点的な方策】

○小学校では、学習で得た知識をより深く理解できるようにするために、問題解決を通して習得した知識を使って、日常生活との関わりの中で捉え直す場面を設定したり、他者との意見交流や協働的な学習の中で考えを深めさせたりすることで、次の学習や生活などに生かすことができるよう授業改善に努めています。また、「記述式」で弱さが見られることから、観察・実験の結果の具体的な数値や、分析した内容などを根拠として自分の考えをもち、その内容を文章で表現できるように指導してまいります。

○中学校では、「思考力・判断力・表現力」に弱さが見られることから、日常の学習において主体的に問題解決に向かえるように仮説を立て、他者との対話や議論を通して実験や観察の場を充実させることを重視し、自分の考えを文章で表現できるように指導してまいります。

### 【質問調査に係る重点的な方策】

○学力の定着については、家庭学習とのつながりが重要です。予習・復習等、自らの課題解決のために積極的に学習に取り組む姿勢や自分で計画を立てた主体的な学習が確立できるよう、各小・中学校においても、引き続き学習習慣の定着に向けた取組を進めてまいります。各家庭におかれましても、ご理解・ご協力をお願ひいたします。

## 5 最後に

市教育委員会では、児童生徒一人一人の個性や能力を伸ばす多様な教育を推進し、発達段階や個に応じた「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実を図っています。基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得を土台に、課題解決に必要な思考力・判断力・表現力を育み、主体的に学ぶ態度や学習意欲、言語活動の充実を通して、学力の向上を目指しています。また、将来への展望を持ち、自らの進路を主体的に切り拓く力の育成にも力を入れています。

本調査結果は、学力のすべてを示すものではありませんが、一つの指標として、児童生徒の学びや生活の充実に役立てていきます。知・徳・体のバランスのとれた「生きる力」を育むために、各小・中学校で有効に活用し、これから時代を生きる児童生徒一人一人が輝く「京田辺っ子」の育成に努めてまいります。保護者の皆様、市民の皆様には、今後ともご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。